

実践報告

次世代育成公開講座参加者の学び

－企画運営の立場から－

加藤千恵子^{1)*} 齋藤千秋¹⁾ 結城佳子¹⁾ 中島泰葉¹⁾ 渡邊友香¹⁾ 刀禰聡美²⁾ 松田慎司²⁾

¹⁾ 名寄市立大学保健福祉学部看護学科 ²⁾ 名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター

キーワード：次世代育成 公開講座 企画運営 学び

はじめに

今回、北海道次世代育成事業としての企画運営 2 年目を迎え、「生まれる」の続きの最新作「ずっといっしょ」を上映できることになり、筆者の2年にわたる次世代を担う方たちに過疎地でも都会と同じに上映される環境をという思いは実現できた。

昨年同様スタッフは、皆、多忙な中、企画に至る過程での広報周知や会場の在り方、駐車場の案内等、協力して、平成29年11月11日（土曜日）14:00～第一部「ずっといっしょ」という映画を321教室、322教室で同時上映し、その後、第二部321教室でよしゅうこ先生の「生命とライフデザイン」と題した講演を60分実施することができた。生憎の悪天候で、後日（平成29年11月13日月曜日）、関連講義内で映画のみ視聴することができた。この一連の企画で学生や参加者の学びについて報告する。

1. 結果および考察

1回目、平成29年11月11日（土曜日）の参加者は大学生49人（看護学科2年生46人、社会福祉学科1人、看護学科3年生1人、社会保育学科1年生1人）、一般参加者14人、教職員8人の計71人であった。アンケート回収率は84.5%（60/71）であった。

2回目、平成29年11月13日（月曜日）の参加者は、看護学科1年生49人（52人中）であった。アンケート回収率は100.0%（49/49）であった。

1) 参加者の背景

1回目、第一部のみ参加した者6.7%（4/60）、第二部のみ参加した者3.3%（2/60）、両方を受講した者85.0%（51/60）であった（図1）。2回目、第一部のみの視聴97.9%（48/49）であった（図1）。

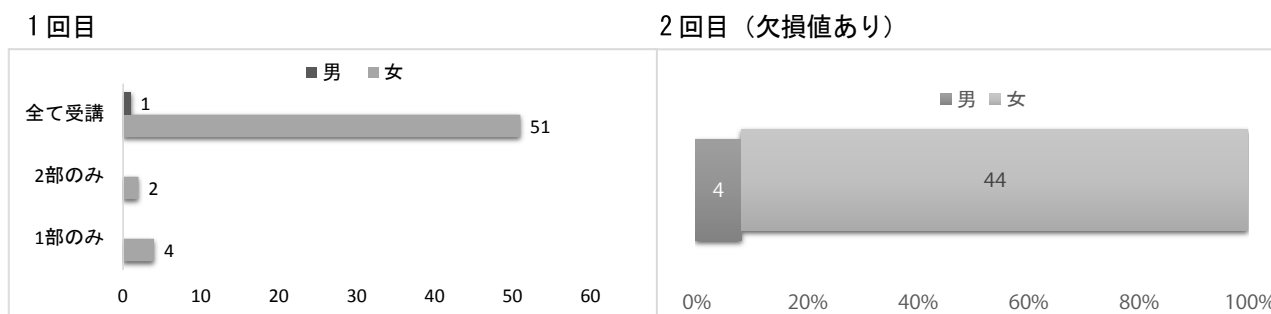


図1 参加状況と性別

1回目の参加者の年代は、10代26.7%（16/60）、20代61.7%（37/60）、30代3.3%（2/60）、40代1.7%（1/60）、50代3.3%（2/60）、60代3.3%（2/60）であった。2回目の参加者は、10代95.8%（46/49）、20代4.2%（2/49）（1人欠損値あり）であった（図2）。

1回目の参加者の所属は、大学生81.7%（49/60）、保育医療福祉関係者5.0%（3/60）、主婦5.0%（3/60）、自営業1.7%（1/60）、会社員1.7%（1/60）、高校生3.3%（2/60）、その他1.7%（1/60）であった。2回目は大学生97.9%（48/49）であった（図3）。

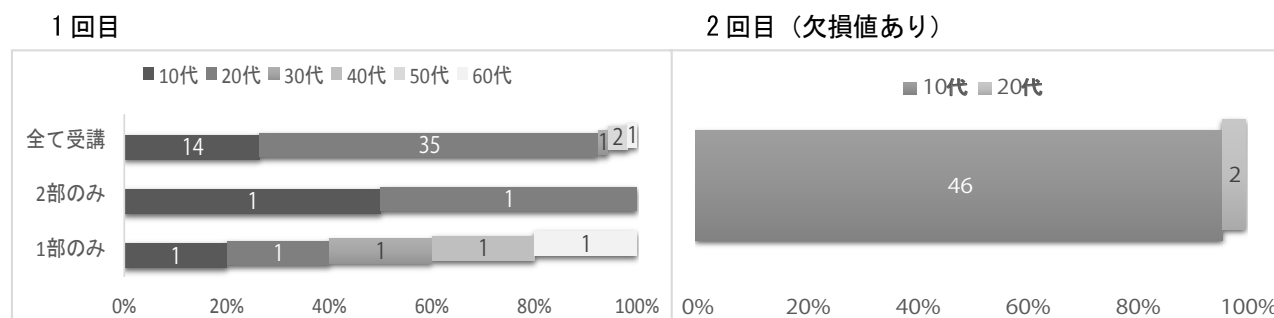


図2 参加者の性別と年代

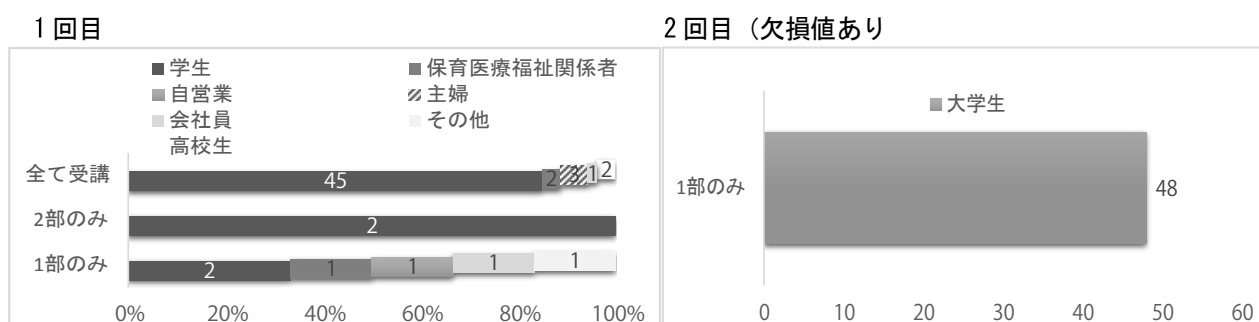


図3 参加状況と所属

2) 広報について（図4）

道からは各近隣市町村への案内がされ、コミュニティセンターから近隣教育機関や子育て支援に関連した施設にチラシなどを配布し周知した。今回の1回目公開フォーラムを知った広報媒体は、口コミ66.7%（40/60）、チラシ・ポスター20.0%（12/60）、その他10.0%（6/60）、HP3.3%（2/60）の順で知ったとしており、広報の効果が出ていた。2回目は口コミ（教員掲示、説明）97.9%（48/49）であった。その他の広報媒体は表1に示す。

表1 その他の広報媒体

| | |
|-----|--|
| 3) | 市立病院でストレスチェックテストに協力した時、パンフをもらった（30代、主12） |
| 12) | 学校に案愛が来たため（高校3年生、女性） |
| 14) | 高大連携授業（高校2年生、女性） |

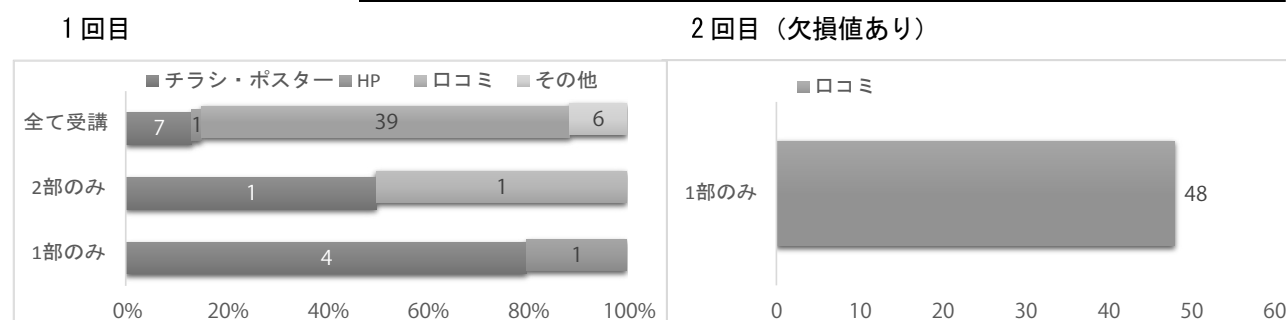


図4 参加状況と参加に至る広報内容

3) 参加動機

1 回目の参加動機は、テーマに関心があった 35.0 (21/60)、映画に興味があった 58.3% (35/60)、講演に興味があった 15.3% (9/60)、その他 45.8% (27/60) であった。その他の主な理由は講義のためであった (図 5)。その他の参加動機は、「前回も参加して感動したので。」(50 代女性、保育士)、「何らかの刺激を受けたかった。」(大学 3 年生) であった。

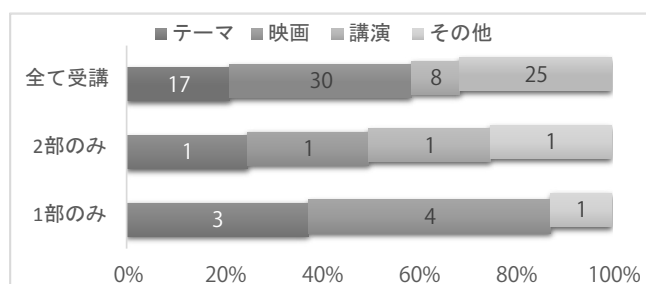


図 5 参加状況と参加動機の関係

4) 会場・日程について

1 回目に関して、「適切である」40.7% (40/58)、「だいたい適切である」39.0% (23/58)、「あまり適切でない」16.9% (10/58)、「適切でない」3.4% (2/58) であった (図 6)。その理由は表 2 に示した。「あまり適切でない・適切でない」とした理由は、「悪天候であり、もっと暖かい時期にしてほしい」、「土曜日にはしたいことがあるので平日にしてほしい」ということであった。

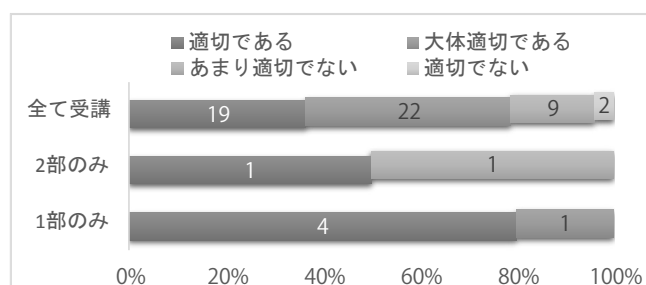


図 6 参加状況と会場、日程の関係

5) 企画内容の評価

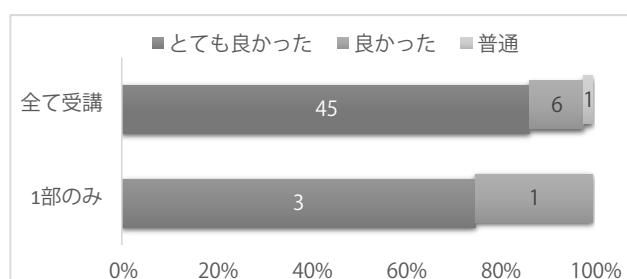
(1) 映画に関して

図 7 は、1 回目の映画の評価と参加状況および 2 回目映画視聴の評価を示した。1 回目、とても良かった 84.2% (48/57)、良かった 12.3% (7/57)、普通 1.8% (1/57) であった (欠損値あり)。9 割以上の者が良いと評価していた。表 3-1;1 回目、3-2;2 回目に具体的な良かった点を示す。悪い点の記述はなかった。

表 2 参加会場・日程の評価

| |
|---------------------------------------|
| 適切である |
| 朝早くでなく、時間帯が良く、午後からで行きやすい (3) |
| 収容人数と来ている人の数が釣り合いがとれ、広さや見やすさが丁度よい (2) |
| 「前に詰めてください」という表示が良い |
| 天候以外に問題はない |
| だいたい適切である |
| 悪天候 (3) で来るのが困難だった |
| もう少し早い時間 (午前中) が好ましい (2) |
| 暖かい時期が良い |
| 終了時間が早めだとい |
| 土曜日は休みたい |
| 開始時間、終了時間共に良い |
| 図書館の大きいスクリーンで見たい |
| 休日に行うのは適切と思えない |
| 休日の午後だったから |
| 土曜日に入るなら、もう少し早めに知りたい |

1 回目



2 回目 (欠損値あり)

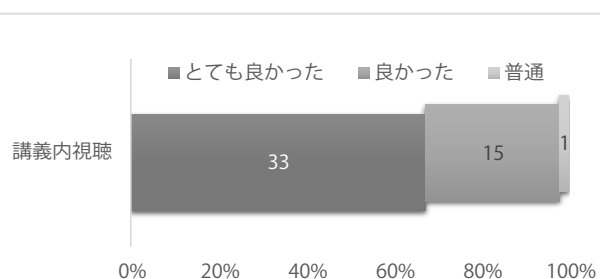


図 7 映画「ずっといっしょ」の参加状況と評価

表3-1 映画「ずっといっしょ」の評価別記述 良かった点-1 回目

| |
|---|
| <p>とても良かった</p> <p>色々な家族の形を知ることができ、感動した（6）</p> <p>3つの家族の形を通して、あり方の違いや命の大切さ、生きること（人生観）を学ぶことができた（6）</p> <p>3つの実話であり、心に響き、感動した（3）</p> <p>心があたたまると、考えさせられる内容だった（2）</p> <p>どの家庭のお話も心があたたまりました（2）</p> <p>命の大切さや家族の絆や愛について考えさせられた（2）</p> <p>あたたかい家族になるよう頑張ろうと思った</p> <p>それぞれの夫婦、親子の心の動きが映像に出ていて、泣いたり、笑ったりできた</p> <p>親子のつながりは血のつながりだけではない</p> <p>血のつながりのないことをどのようにいつ伝えるかなど、フィクションと全く違った</p> <p>血のつながりの有無ではなく、あたたかい家族の形を感じた</p> <p>心が繋がっていることが大事</p> <p>人と別れることは悲しいが乗り越える強さがある</p> <p>この映画を見ることができて本当に良かった</p> <p>障がいを持つ子どもの子育てをしている母親の明るさがとても良かった</p> <p>障がいを持つ子どもの子育ての難しさ</p> <p>家族の幸せな場面、辛い場面の両方が見ることができた</p> <p>これからの人生や価値観を見直す機会になった</p> <p>血のつながらない家族は増えていくと思う</p> <p>どんな思いを抱えて生活しているのか葛藤を知ることができ、勉強になった</p> <p>イメージしやすくなった</p> <p>人が生まれる・亡くなる・別れることを学び、人の命について考えることができた</p> <p>虎ちゃんのその後を知ることができた</p> <p>生きていることの尊さを実感した</p> <p>奇跡</p> <p>人間について考える機会となった</p> <p>子どもと一緒に見られる会場があって良かった</p> <p>生まれることのすばらしさ、成長の過程、死、その生涯を考え、自分の命や生活、将来を考えた</p> <p>良かった</p> <p>命と向き合うことができた</p> <p>様々な家族の形を知ることができた</p> <p>毎日笑顔で暮らしていても、血のつながりのないことの伝える葛藤やすめかもしれない恐怖</p> <p>戦いながら暮らしている家族の姿を見て、考えさせられた</p> <p>ラストシーンが作り物に見え残念だが、他は感動で一杯</p> |
|---|

表3-2 映画「ずっといっしょ」の評価別記述 良かった点-2 回目

| |
|--|
| <p>とても良かった</p> <p>人の死、出会い、命の大切さを感じ、生と死について自分なりに考える機会になり、理解ができた（6）</p> <p>本当の自分の子でなくとも（血のつながりがなくとも）強い絆で結ばれ、家族になれる（4）</p> <p>家族とは何か、家族のあり方について考えさせられた（4）</p> <p>実話で感動した（2）</p> <p>家族の大切さを感じた</p> <p>命について考えさせられた</p> <p>親兄弟、子どもとの関わりに深く興味を持った</p> <p>人が生まれ、死ぬときの状況は人それぞれに違うから家族の幸せを家族で分かち合えると気づいた</p> <p>健康に産んでくれたことや両親と血縁にあることは当たり前のことではなく、幸せなことである</p> <p>生きるとは当たり前ではなく、素晴らしいこと</p> <p>様々な家族の形、幸せの形が見られて良かった</p> <p>人それぞれの生き方が伝わってきた</p> <p>どの人も幸せそうに生きている</p> <p>人の生き方、関係は人それぞれで、生きる事、繋がるのが少しわかった（2）</p> <p>自分が家族を持つ時について具体的にイメージできた</p> <p>人と人とのつながりの形が見えた</p> <p>自分と重ね、主観的かつ客観的に見ることもできた</p> <p>家族の愛情は素晴らしく温かいと感じた</p> <p>親は子を、子は親を愛して信頼していればよい家庭ができると感じられた</p> <p>重い病気で懸命に生きる子と懸命に育てる親の姿から生きる勇気もらった</p> <p>映画の登場人物が一生懸命生きていた</p> <p>大切な人を失っても、いつまでも愛し続けることが大切と学んだ</p> <p>どんなことがあっても、今を大切に生きることが大事にできて感動した</p> <p>死別しても家族であることに変わりはない</p> <p>死は身近なものだ</p> <p>子育てや死に対するイメージが変化した</p> <p>それぞれの家族の視点で見ることで考えさせられることが多かった</p> <p>親も悩みながら自分を育ててくれたと感じた</p> <p>大人になっても、前向きな優しい考えができるようになりたい</p> <p>自分の家族を持ちたい</p> |
|--|

| |
|--|
| 良かった |
| 感動した (3) |
| 「家族とは何か」を考えることができた (3) |
| 場面が良く変わる。前提条件を先に聞いておきたかった |
| それぞれの人のストーリーを通して、赤ちゃんが生まれるということの大変さ、生まれてから育つまでの大変さ、父と母が子に対して思うことなど、自分が今まで考えてなかったことが知れた |
| 「生まれる」をみたことがあったが、今回みたものは生活や死というまた違う視点から描かれていて、新たに考えさせられることが色々あった |
| 色々な人の生死に対する向き合い方を学べた |
| たとえ障害を子どもが持っていて明るく過ごしていることが良かった |
| 死というものが身近にあることを確認できてよかった |
| 自分が経験したことがないことを経験した気持ちになった |
| 将来助産師を目指しており、色々な家族の形を知れて良かった |
| 何を訴えたいのかにもよるが、今、映画で取りあげられたケースは別に珍しいことでも変わっていることでもないから、あえて映画にすること自体が理解できない。まあ幾度と涙腺は緩みましたがね！ |

リアルな3つの家族の姿から、生死、家族のあり方、血のつながり、障害を持つ子どもの育児から支え合い、絆の持ち方を学んでいた。感動によって、価値観が変化し、人生を見直す機会になっていた。

(2) 講演「生命とライフデザイン」の内容に関して

図8は講演の参加状況と評価を示した。とても良かった60.0% (33/55)、良かった32.7% (18/55)、普通5.7% (3/55)、とても良くなかった1.9% (1/55)であった。

表4に講演の評価別記述を示した。

映画の内容を深め、互いに話せる場を設けるなど、視聴覚を駆使したわかりやすい内容であり、性という普段は考えない内容について考える機会が持て、大事なことであると認識が深まっていた。

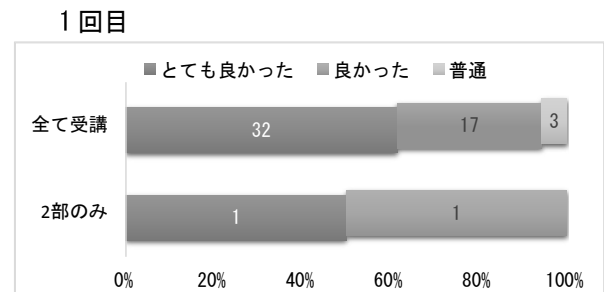


図8 講演の評価と参加状況

表4 講演の評価別記述 良かった点

| |
|-------------------------------------|
| とても良かった |
| わかりやすい説明と媒体（動画・人形）を使いわかりやすい (3) |
| 命やそのつながりを考える機会になった (2) |
| 人が愛されて生きていることを実感し、愛情の大切さがわかった (3) |
| 愛されないと大きく育たない |
| 命、性と自分が考えるべきテーマを提示してくれた |
| 命は簡単に授けられない |
| 命は奇跡だ |
| 赤ちゃん人形は意外に重い (3000 g お腹に入れている母はスゴイ) |
| 普段聞くことのない内容で新鮮 |
| パートナーとの関わりを考えることができた |
| 自分の身体について関心もとうと思った |
| 性について考える機会になった |
| 最後の詩が心に響いた |
| いろいろなことが知れた |
| これからの自分に関係する事なのでためになった |
| 様々なことを考え直す機会になった |
| 面白い話が聞けた |
| DVについて知識が得られ、認識が変化した |
| 良かった |
| 内容が学生向きで、思っていたものと違い、先に説明があると良かった |
| 卵子から出産するまでの成長の動画はすごかった |
| 知っている内容が多かった |
| 一貫性がほしかった |
| 普段考えない性について考えることができた |
| 良い話だった |
| 性について恥ずかしがらずに学んでいこうと思った |
| デートDVやLGBTの割合が思った以上に多いと知ることができた |

（3）今回の企画内容の活用度

図9は、1回目の参加状況と今後の活用について示した。とても活用できる59.6%（34/57）、少し活用できる36.8%（21/57）、あまり活用できない3.5%（2/57）であった。その理由を表5-1；1回目、5-2；2回目に示した。家族や身近な人との人間関係を見直す機会になり、「感謝して生きていきたい」「素直に表現したい」など、人としての倫理に関わる感性が磨かれていることがわかる。

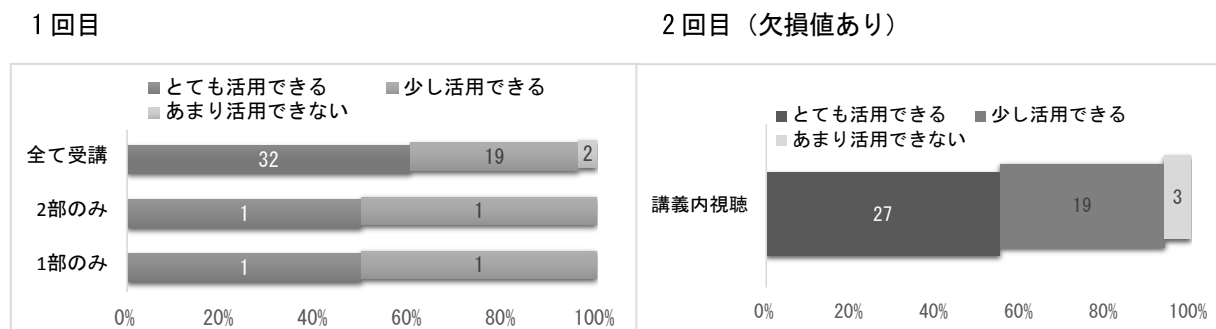


図9 参加状況（1回目）と映画と講演内容の活用度、映画視聴の活用度

表5-1 映画と講演内容の活用に関する理由-1回目

| |
|--|
| とても活用できる |
| 今後の人・家族との関わり、子ども達への語り掛けに参考になる（2） いろいろなことを考える機会、たくさんある（2） 生きる事について様々な視点から学ぶことができ、生きる事そのものの考え方、価値観が変化し 身近にいる家族・友人・後人としっかり向き合いたい 命を抱えている人を見たら助けてあげたいと感じられるようになった デートDVの可能性とお互いを尊重する関係を持つことを考えることができた LGBTが割といるとわかった ネットはあまりよくない 命の大切さ、家族っていいなと思うことができた それぞれの家族にそれぞれの生き方があり、正解はないと感じた 自分自身の観点・価値観を考え、自分の軸を形成するのに必要なことである 小さなことも喜び、愛することで温かい気持ちが生まれると感じた ありのままの思いを全力で伝えることで、全力の反応が返ってくるから、口下手でも素直に表現 人に感謝して生きていきたい 今を大切に精一杯生きたい 人の命について深く考える機会になった 今後、家族ができて、性行為をすることもあると思うから、今日のことを大事にしたい 職に就いた時に参考にする 家族を大切にする 今後、人間関係を見直したい |
| 少し活用できる |
| 被害を受けている人がいたら助けになりたい 今後、人の死や実習で小さな子を受け持った時に家族がどんな気持ちか考えられる 周囲の者がデートDVを受けていないか、LGBTと打ち明けられず悩んでいないか配慮したい |

表 5-2 映画視聴内容の活用に関する理由-2 回目

| |
|---|
| <p>とても活用できる</p> <p>家族はいつも一緒だと思っていたが、いつか別れが来ると思った 存在はキセキだから、1日1日を大切にしたい 看護師として患者さんとその家族の関係を大切にしていける 障害を持つ子どもに前向きに明るく向き合う両親の夢は、今後看護師をやっていく上で、仮に自分が親になった時に、活かせることが沢山 家族の形について、新しい考え方がまた1つ増えた その人にとっての大切なものは何か見つけたい 家庭の事、子どものことで悩んでいる人はどんな考えを持っているのか知ることができたので、患者さんとどのように向き合えばよいのか た 今、祖母と母が1人で暮らしているおり、自分は1人息子であるため、家族について考え直す機会になった 自分の将来持つ家族がどんな形であっても、自分たちが納得できる心が持てるようにしたい 結婚や出産、子育てなどということが、そう遠い未来ではない年齢になってきた 人の生死の瞬間に立ち会う仕事を目指しているから 家族とのつながりの大切さを学び、家族と過ごす時間1日1日をより大事にして過ごす 当たり前はない それぞれの家庭で違うことを考える機会になった 人には色々な生き方があり、人生には色々な形があることに改めて気づいた 出会いも別れも、楽しさ、嬉しさ、悲しみも、生きるということは簡単なことではないが、自分らしい生き方をすることが大切だ どんなにつらい事実や病気があっても、幸せと思えることが、3つの家族に共通しており、様々に家族の形があると改めて実感した。将来看 て、その家族に合った幸せを一緒に追求したい 大切な人と別れることは、辛いことだが、さみしくても前を向いて必死に生きている今さんの姿に感動した どんな時も愛情を持って人と接しようと思えた 家族の形は人それぞれだと思えた 今を大切に生きることが、とても素敵なことだと思った 家族とは何か、家族の大切さがわかったので、これからちゃんと大事にしていこうと思った 映画に出てきた方々のように立派には生きられないが、私の1つの考え方として、自分のものにして活用できたらいいと思う 自分が親になった時、どう子どもに接するかなどとても勉強になった 親のありがたみを感じさせられた 感謝して生きることが大切と強く思った 将来、子どもを持つ立場になった時に活用できる 似たような人の気持ちに寄り添えると思う 映画に出てきたような患者さんを将来見るかもしれないから 少し活用できる</p> |
| <p>祖父母が亡くなった時、悲しかったが、それ以上に、両親が亡くなったら、これからどう生きていけばいいのかわからない。このDVDを見て、 人と共に生きるということが少しわかる気がした 自分にもそういうときが来るかもしれない 生まれてくることや、死や別れについて、考えるようになった 自分にもいつ起きてもおかしくない内容があったので、参考にしていきたい 家族を大切にしたい (2) 経験したことがないから、もしそういう場面にあった時、どうすればいいか参考になった また違った生と死がおとずれると思うから、全部参考にになるわけではないが、部分的には考える要素になる 家族には色々な形があり、どんな形であれお互いを大切に思っていることは変わらない 将来、結婚する時や子どもを産む時に 「今が一番若くて、1日1日老いていく」という言葉を聞いて、もっと毎日頑張ろうと思った その人の人生がわかった 将来助産師を目指しているため、色々な家族の形を知れて良かった 今、映画で取りあげられたケースは別に珍しいことでも変わっていることでもないかた、あえて映画にすること自体が理解できない。涙腺 あまり活用できない</p> |
| <p>自分に子どもがいるイメージがわからない 子どもがいないから</p> |

6) 親になることについて

(1) 親になること

図 10 は、親になることと参加状況を示した。親になりたいと「とてもそう思う」57.7% (30/52)、「思う」30.8% (16/52)、「どちらでもない・わからない」9.6% (5/52)、「全く思わない」1.9% (1/52) であった。

(2) 「将来、親になりたい」の肯定的理由・否定的理由 (複数回答)

その理由を図 11 に示した。肯定的主な理由は 1 回目「好きな人と暮らす」48.1% (25/52)、「育児希望」

63.5% (33/52)、「家庭を持つ」36.5% (19/52) で、2回目「育児希望」42.9% (21/49)、「家庭を持つ」30.6% (15/49)、「好きな人と暮らす」・「親のように生きる」各24.5% (12/49) あった。

否定的な理由は、1回目、「責任が重い」5.8% (3/52)、「自由でない」3.8% (2/52) などであった。2回目がその他（不安、想像がつかない、考えようと思わない、考えられない）、「自由でない」・「面倒」・「責任が重い」各6.1% (3/49) などであった。

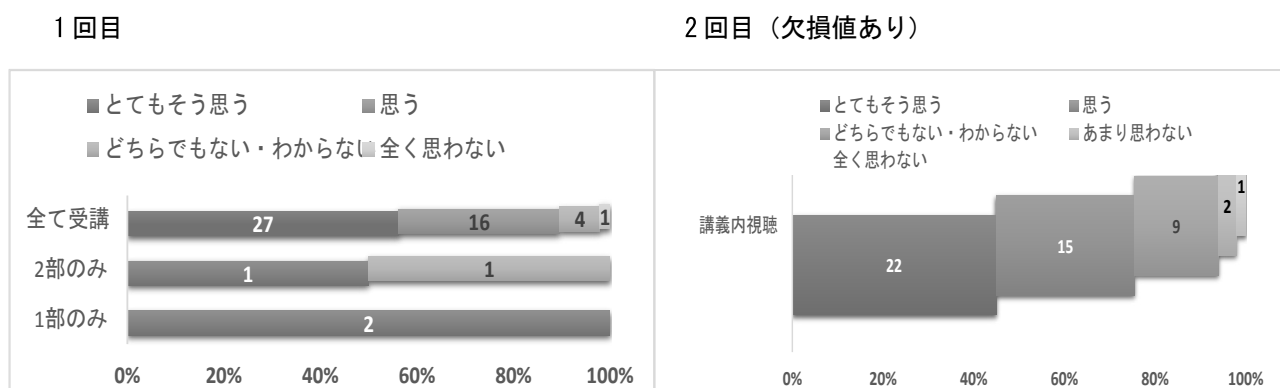


図10 参加状況（1回目）と親になりたいという思いの状態

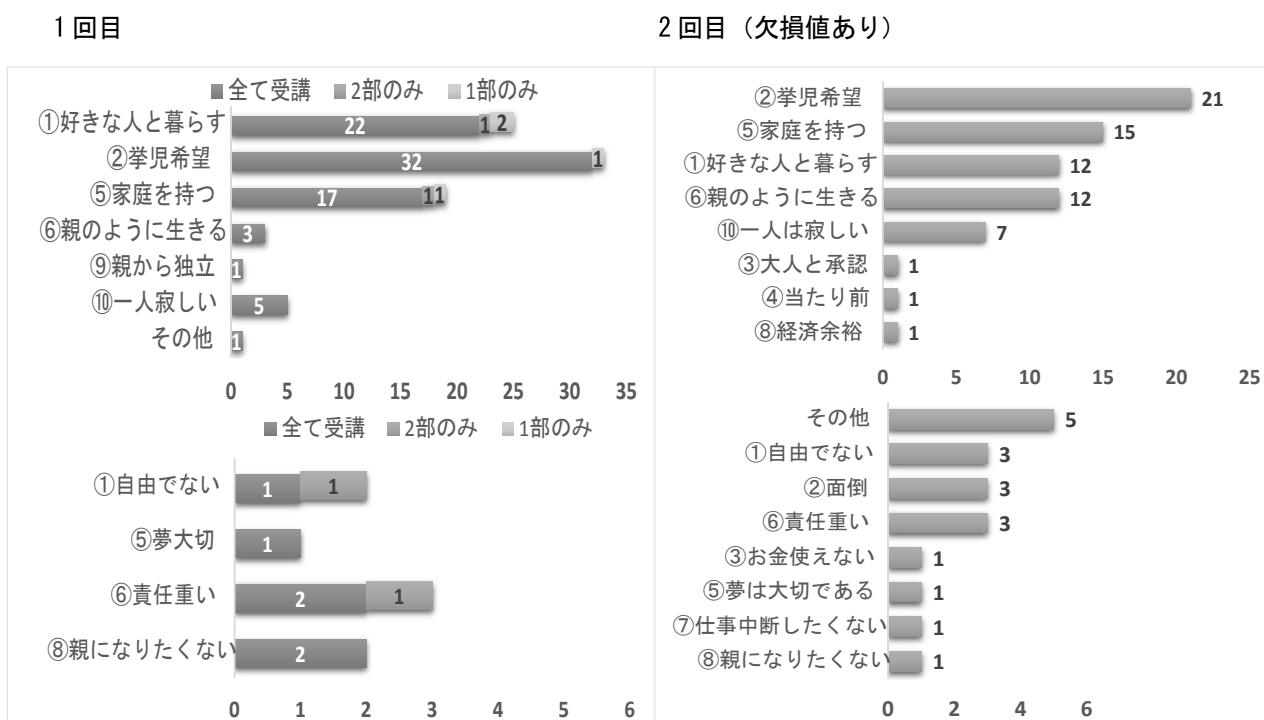
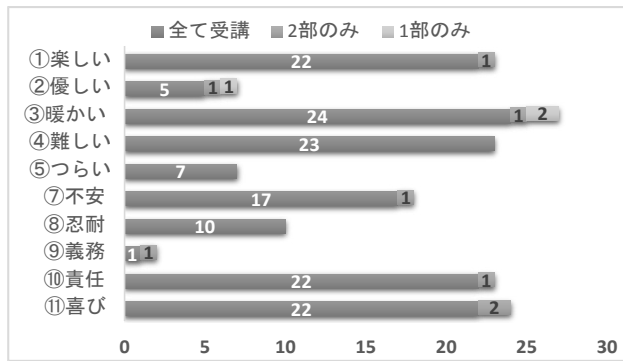


図11 参加状況（1回目）と親になりたい肯定的・否定的理由

7) 子育てイメージ

図12に参加状況と子育てのイメージを示した。1回目、「暖かい」51.9% (27/52)「喜び」46.2% (24/52)、「責任」・「楽しい」・「難しい」各44.2% (23/52) で、2回目、「責任」51.0% (25/49)、「難しい」42.9% (21/49)「暖かい」40.8% (20/49) とイメージしており、子育ての喜び・楽しみだけでなく、育児には責任や難しさが伴うことが挙げられていた。

1 回目



2 回目（欠損値あり）

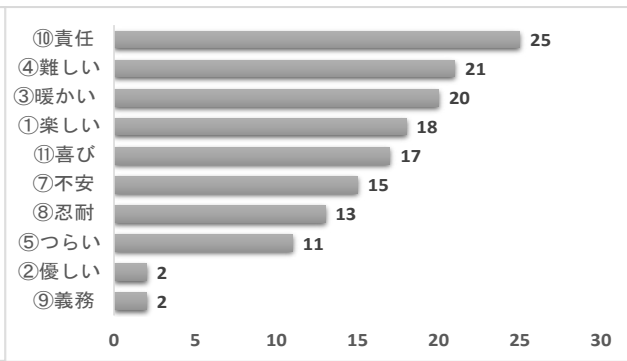
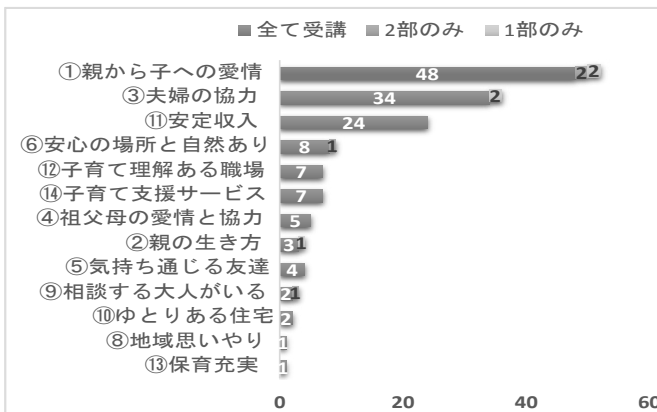


図 12 参加状況（1 回目）と子育てのイメージ

8) 子どもが育つ時に大切なもの

図 13 は子どもが育つ時に大切なものを示した。1 回目、「親子のへの愛情」100.0% (52/52)、「夫婦の協力」69.2% (36/52)、「安定収入」48.1% (25/52) で、2 回目も上位は同様の順序で、「親子のへの愛情」48.1% (38/49)、「夫婦の協力」48.9% (24/49)、「安定収入」32.7 (16/49) となっており、愛情と夫婦の協力が不可欠であり、経済的な安定が基盤に欲しいと考えていた。

1 回目



2 回目（欠損値あり）

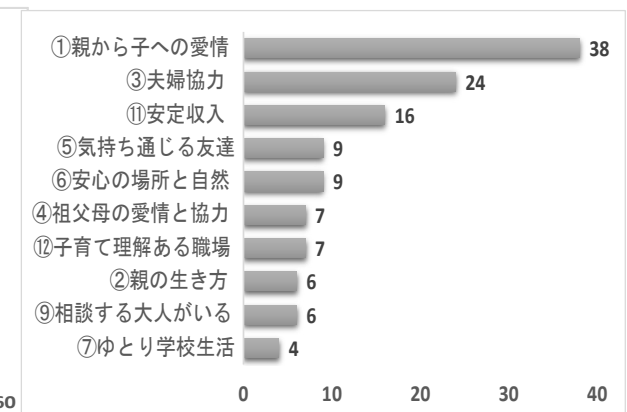
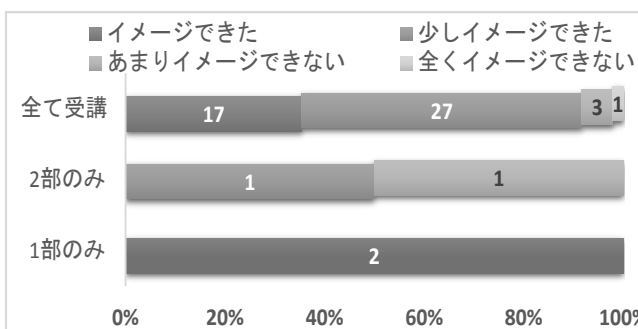


図 13 参加状況（1 回目）と子どもが育つ時に大切なもの

9) この講座で、ライフデザインのイメージはできたのか

図 14 は、参加状況とライフデザイン（イメージ）が描けたかを示した。イメージできた 36.5% (19/52)、少しイメージできた 53.8% (28/52)、あまりイメージできない 7.7% (4/52)、全くイメージできない 1.9% (1/52) であった。

1 回目



2 回目（欠損値あり）

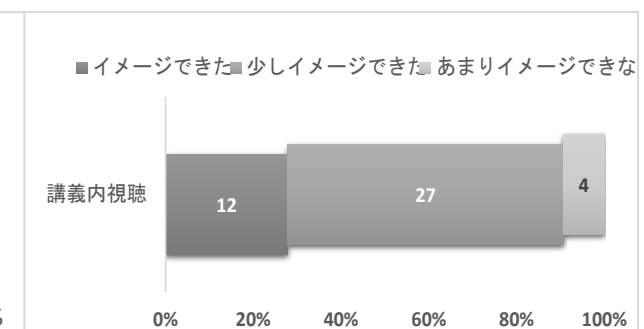


図 14 参加状況（1 回目）とライフデザインのイメージ

1回目、イメージできた36.5%（19/52）、少しイメージできた53.8%（28/52）、あまりイメージできない7.7%（4/52）、全くイメージできない1.9%（1/52）で、2回目、イメージできた27.9%（12/43）、少しイメージできた62.8%（27/43）、あまりイメージできない9.3%（4/43）であった。

10) 今後の取り組み

図15は、今後の取り組みとして、この企画の継続に関して示した。1回目、このまま継続してほしい94.3%（50/53）、内容を変更し継続してほしい3.8%（2/53）、継続しなくてよい1.9%（1/53）で、2回目、このまま継続してほしい97.7%（42/43）、継続しなくてよい2.3%（1/43）であった。

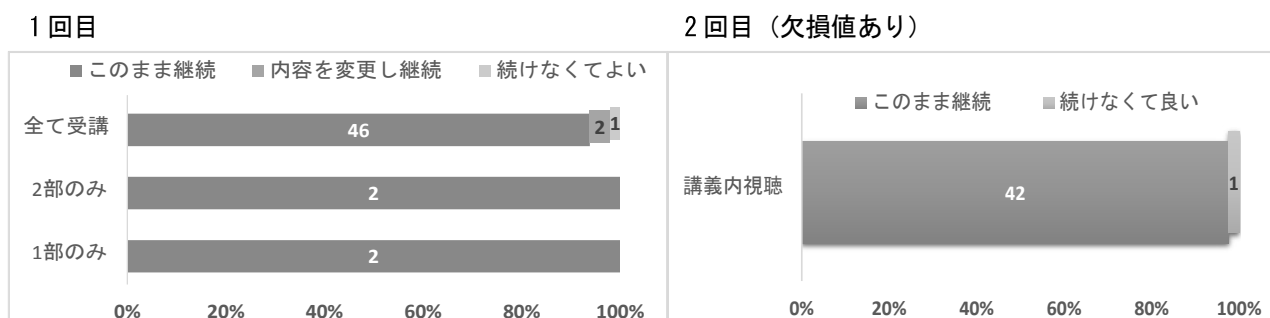


図15 参加状況（1回目）と今後の取り組みの継続に関して

11) 今回のフォーラムで感じたこと（1回目、表6）

表6 今回のフォーラムで感じたこと（1回目、n=20）

| 今回のフォーラムで感じたこと |
|--|
| このような機会をありがとうございます（3） 自分の限られた命、生き方について改めて考える機会になった（2） 命の大切さ、家族について考えることができて良かった（2） 来年4月に出産予定で、この時期に映画が見られて良かった 大学に行かず、就職したので、大学の学生と参加でき新鮮だった（30代主婦） 映画を見て、普段当たり前に感じていることが幸せと思った 産まれてくる命に感謝したい 生と死は身近なことと実感した LGBTに偏見を持つ人がいるが、平等であると考えることができた 命について考え直すことができた 人の命には愛が必要である 命、家族、親の存在が偉大だと感じた 愛情と日常の優しさを大切にしようと思った 感動をもらったので、今後も続けてほしい 講義だから来たが、来て、観て、聞くことができて良かった（20代、女性、大学2年生） 家族が温かくて、ポカポカした気持ちになった 映画上映で学ぶことがたくさんある このようなフォーラムを増やしてほしい 力強く生きたい 自分のためになる話だった おもしろかった 勉強になった（20代女性、大学2年生） 士別市内にも掲示があると良い（30代、女性、自営業） 来年はずっと参加したい（10代、女性、大学2年生） 生涯について考えた。涙、涙でした（20代、女性、大学2年生） 来てよかった（2）（10代、女性、大学2年生）（20代、女性、大学2年生） 天候が悪くても来てよかったと思える良い時間だった（10代、女性、大学2年生） 天候が残念だったが、もっと多くの人が見られたら良かったと思う（30代、女性、自営業） |

悪天候の中でも来て良かったと思える内容であった。また、学生と共に学ぶ場に参加し、新鮮な思いを抱いた一般市民の方がいた。1 回目の映画と講演の企画に関しては、全て受講した者の割合が昨年度の 48.3% (56/116) に比べ 88.3% (53/60) と高かった。講義だから来たという受け身的な発想の学生もいたが、「もっと大切なことがあった」という自分の人生を振り返る機会が持てたと変化した部分が認められた。

一部、映画、講演評価ではない部分で悪く表現した者がいたが、「勉強になった」との記述があり、体調の悪さ、天候の悪さなどが相まって、正当に評価できなかったが、最後の表記で学びを考えられたようである。

今後、広報は名寄市だけでなく、周辺地域へ情報提供を拡大したいと考える。

次世代育成支援対策推進法¹⁾の第1条には、次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、かつ、育成される社会の形成に資することを目的とし、平成26年に改正され、さらに10年延長されている。父母その他の保護者が子育てについての第一義的責任を有するという基本的認識の下に、家庭その他の場において、子育ての意義についての理解が深められ、かつ、子育てに伴う喜びが実感されるようにと国²⁾、都道府県、市町村における取組が描かれている。道³⁾において、名寄市周辺地域における次世代育成について、共に語り合える場を設けるなど、今後の企画は単に見る聴くから語り合い、行動に移せるものへと発展させたいと考える。

2. 結語

- 1) この講座で、ライフデザインのイメージづくりができた者は1回目、イメージできた36.5% (19/52)、少しイメージできた53.8% (28/52)で、2回目、27.9% (12/43)、少しできた者は62.8% (27/43)であり、講座の目的は達成できた。
- 2) 本企画で、家族や身近な人との人間関係を見直す機会になり、「感謝して生きていきたい」「素直に表現したい」など、人としての倫理に関わる感性が磨かく機会となった。
- 3) 今年度の受講者は悪天候により少なかったが、映画と講演の全てを受講した割合が昨年度の5割から9割へと増加しており、セットでライフプランの考える企画に参加してもらうことができた。
- 4) 今後も、広報する地域を広め、「自分に何が必要で、何を身につける必要があるのか」を考え行動できる人材育成に繋がる企画・開催をしていきたいと考える。

引用文献

- 1) 次世代育成支援対策推進法、<https://ja.wikipedia.org/wiki/> (2017.10.2 閲覧)
- 2) 次世代育成支援対策全般 | 厚生労働省、
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/jisedai/index.html (2017.10.3 閲覧)
- 3) ライフデザインゼミ北海道 <https://lifedesign-hokkaido.com> (2017.6.20 募集)